

白門経友会

今年はいままでにまして暑い夏ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

本年度は法学部が茗荷谷に移転し、多摩キャンパスの様子もずいぶん変わりました。コロナ前には昼休みなど食堂近くは雑踏状態でしたが、それは緩和され、過ごしやすくなったとも言えますが、少々寂しくもあります。キャンパスの現状については、次号でご報告したいと考えております。

さて、白門経友会もようやく通常の対面での総会を六月一〇日に開催することができました。各号議案と報告については次ページに詳述いたします。

二〇二三年度の活動計画については、「本会の活動があまり周知されていないのは大変残念であり、他の支部や地元OBとの連携など、本会の存在を知らしめるための方策を考えるべきである」との意見が出されました(コロナ禍でほとんど目

4年ぶりに、対面による総会を開催しました

立った活動ができませんでしたが、これからはイベント等を通じて積極的に活動していきたいと思っております。

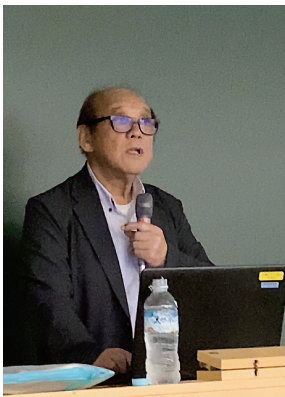
皆様からのご協力をこの場を借りてお願いいたします。

総会の後は、例年当該年度末に退職されるご予定の教員に記念講演会をお願いしております。今回は金融論の井村先生です。

公開記念講演会

演題 井村進哉教授

演題 二七年間の授業・ゼミを振り返って



講演ではご自身の経歴、研究歴からはじめて、中大でのご自身の授業・ゼミについて振り返られました。

一九七三年に経済学部に入學し、学部は資本論を読んだりしていたが、古典を読んで過ごすことに満足できず、大学院は商学研究科に進学し、アメリカ金融史、企業財務、証券市場、政府金融機関の生成史を学んだ。一九八五年に小樽商科大学に就職すると、たとえば財務管理論の授業では、当時倒産が話題になった三光汽船の財務諸表一〇年分をそのまま学生にわたし、学生に財務分析をさせるなどして鍛えた。こういう

経験させた結果、卒論の提出率が七割超えた。三、四年のゼミをやりとおした上で卒論を出して初めて一二単位となる制度はよいと思いい、中大でも同様のことができればと願ったが、かなわなかった。小樽商大はこぢんまりした大学だったが、中大に戻ると一学年の定員一〇〇〇人で、自分の古巣ではないような気もした。そのような中で「孤塁を守る戦い」をやるんだという思いをもつて臨んだ。

ゼミでは、論文を書くことの大切さを強調し、論文の基本が論争行為であり、考察対象を明確にした上で、課題を設定し、分析視角を意識した上で仮説を立て、その検証を行うという一連の手続きの重要性を教えた。

た。フォーマリティを大切にし、財政分析報告集などに仕上げさせた。その結果、卒業生の多くが金融関係に就職した。

井村先生は、このように中大での二七年間を振り返られました。先生はちょうど二年前に大病を患われて昨年一月に寛解され、息子からもらった「命」でさらに一〇年間頑張っていたといきたいと、最後に今後の抱負を語られました。大学の定年退職によって、教育活動からは身を引かれることになりましたが、研究、そして在職中は兼職であったJASC研究所理事長を本職として、精力的に社会活動を続けられていく意気込みを語られて、講演を終えられました。

講演会の後は、ヒルトップ二階に会場を移し、懇親会を行いました。(写真:下)。

井村先生のゼミから卒業生、現役学生も参加してくれて、あつという間の楽しい二時間となりました。



第三三回定期総会資料

第1号議案 二〇二二年度活動報告

I 会議

1. 二〇二二年度定期総会

二〇二二年七月二五日(金)

七月二二日(金)

新型コロナウイルス感染症対策として、

対面での総会開催を断念し、白

門経友会HPに掲載し、持ち

回り審議とする。

▼第1号議案

二〇二二年度活動報告及び決算

▼第2号議案

二〇二二年度活動計画及び予算案

▼第3号議案

その他報告事項

以上、持ち回り審議にて承認されました。

2. 常任幹事会

二〇二三年三月二〇日(水)

II 行事

二〇二二年度はコロナ禍のため
めぼしい行事を行うことができ

ませんでした。

III 会報の発行

▼第八二号 二〇二二年九月一日発行

学部長挨拶(佐藤拓也教授) /

キャンパス点景 / 第三二回定期

総会資料 / え、あの先生が(若

松直幸教授)

▼第八三号 二〇二三年一月十日発行

経済学部百周年記念奨学金受給

者の活躍 : 「受験の挫折から大

逆転。難関資格に挑み、金融大

手に就職した充実の四年間(山

本さくら)、「授業で「ゲーム理

論」に魅せられ研究者を志して

大学院へ。」「方小セン) / 「御

茶ノ水から始まった書籍との出

会い」(谷口洋志)

第2号議案 二〇二二年度活動計画

I 会議

1. 二〇二二年度定期総会

日時 二〇二二年六月一〇日(土)

一四時より

場所 七号館一階七二〇四教室

(1) 二〇二二年度事業報告・決

算報告

(2) 二〇二二年度事業計画・予

算案

(3) 役員選任および役付き幹事の承認

(4) その他 総会終了後、公開記念講演を実施する

時間 : 一四時四〇分より

講師 : 井村進哉 教授

演題 : 「二七年間の授業・ゼミを振り返って」

II 行事

2. 幹事会
年三回程度、対面で開催する。

III 会報発行

1. 学部授業・ゼミへの協力。学外および会員からの講師の推薦を経友会として協力支援する。

2. 学部行事への協力。

3. 会報などを通じて、「経済学部創立百周年記念奨学金」募金を支援する。

4. 白門経友会会員同士の親睦を計り教職員及び学生との交流を深める行事を行う。

III 会報発行

会報「白門経友会」を年3回

発行する。なお、前年度同様に、

原則として紙ベースでの発行を

年1回として、他の号はホームページへの掲載とする。

IV その他

1. 学部の活動状況を、積極的に会報を通して広報する。

2. 多数が参加可能な講演等の開催。あるいはオンラインで可能な講演を行う。

3. 白門経友会ホームページの内容の充実化のために、学生および外部有識者からの投稿を勧める。

4. 以上の活動を通して入会呼びかけの強化。

第3号議案 役員選任および役付き幹事の承認

顧問 齋藤巖、松丸和夫

会長 佐藤拓也(経済学部長)

幹事長 濱岡剛

副幹事長 佐藤文博、鳥居鉦太郎

常任幹事 安藤磐、風間俊範、鈴木秀男、高梨明宏、田中右一、局芳暁、吉永匡宏、米田貢

監事 石橋敦史(経済学部事務

長、森元公和

(あいうえお順、敬称略)

2022年度 決算報告書

自2022年4月1日 至2023年3月31日 (単位:円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	1,097,493	総会費	0
会費収入	224,664	印刷費	61,875
寄付金収入(学員会)	100,000	HP維持費	26,400
受取利息	9	交流費	0
		振込手数料	495
		通信費	18,480
		雑費	2,428
		小計	109,678
		次年度繰越金	1,312,488
合計	1,422,166	合計	1,422,166

次年度繰越金内訳

三井住友銀行八王子支店	普通預金	423,584
ゆうちょ銀行	通常貯金	843,829
現金		45,075
合計		1,312,488

2023年度 予算報告書

自2023年4月1日 至2024年3月31日 (単位:円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	1,312,488	懇親会費	55,000
会費収入	200,000	会報発行費	70,000
懇親会会費収入	55,000	HP維持費	40,000
寄付金収入(学員会)	100,000	交流費	30,000
受取利息	8	振込手数料	1,000
		通信費	30,000
		雑費	20,000
		小計	246,000
		次年度繰越金	1,421,496
合計	1,667,496	合計	1,667,496

え、あの先生が シリーズ③⑤

経済学部助教 章沙娟



二〇一九年四月に、経済学部に着任いたしました章沙娟(しょうさ せん)と申します。私は大学院を修了後、東洋大学で教職に就いた後、本学に着任しました。専門は国際金融であり、二〇一九年三月に退職された中條誠一先生の後任として国際経済部門に属しています。担当科目は「国際経済学」「外国為替論」「特殊講義Ⅲ」「貿易・国際金融特別講義」に加え少人数の「演習」も担当しています。「特殊講義Ⅲ」では、英語で為替相場の決定理論について教えています。「演習」では、英語で為替相場の変動が企業パフォーマンスに与える影響を主要なテーマとして、日々学生と共に学んでいます。現在の私の研究でも、中国の企業レベルのデータを用いて、為替相場の変動が企業の輸出数量・価格に及ぼす影響、およびそのメカニズムについて研究しています。為替相場は、様々な経済主体に影響を与える重要な要素です。家計にとつては物価や資産運用、海外旅行などに関係し、企業にとつては貿易や海外生産ネットワークの構築、資金調達手段や企業買収などが関連します。現在、為替相場を理解することは私たちの生活において欠かせない重要なスキルとなっております。ぜひ皆さんにも為替相場に興味を持ち、積極的に学んでいただきたいと思います。

私の出身地は中国の浙江省にある「温州」という都市で、「温州みかん」の名前の由来となった柑橘の産地としても知られています。暖かい気候は日本本土と似ています。

私は約一五年前の二〇〇八年四月に日本にやってきました。当時、喜びと不安を抱えながら交換留学生として、富山国際大学に留学しました。日本を選んだ理由は、高校時代に観た「スラムダンク」というアニメに感銘を受け、日本のアニメに魅了されたからです。そして、大学四年生の進路を考える際、日本への留学を決意しました。富山国際大学に在籍していた間、国際経済学を学ぶ機会を持ち、経済学に深い関心を抱くよ

うになりました。その後、二〇一〇年四月に横浜国立大学大学院国際社会科学研究所に入学し、計量経済学と国際経済学を専攻し、将来的に日本の大学で教鞭を執ることができるよう勉強に励んできました。そして、幸運なことに、中央大学の先生になることができて、私を育ててくれた日本に対する感謝の気持ちに溢れています。着任してからまだ日が浅いですが、経済学部の先生方や事務職員の方々はとても親切で、私はすっかり中央大学に馴染んでいます。今後、わずかな力ですが、中央大学の教育や研究に全力を尽くして行きたいと思っています。

編集後記

先日ある会員から、一九八七年卒の佐藤英司氏が山形銀行の頭取に就任したことを、ぜひ会報で取り上げて欲しいという連絡をいただきました。OBの活躍を紹介することをこれまであまりしておりませんでした。今後そうしたコーナーを設けることも考えたいと思います。詳細はこれからですが、ぜひ紹介したいOBの活躍がありましたら、お知らせください。(幹事長 濱岡 剛)

経済学部創立百周年記念奨学金
へ募金のお願い (目標金額 六〇〇万円)

学生のキャリア形成を金銭面から後押しする「経済学部創立百周年記念奨学金」の原資が、三年後にも尽きようとしています。経済学部創立百周年に寄せられた篤志から創設され、以来十年間で約二百名の学生を後押しし、各々が大きな成果を挙げてきた本奨学金を、これからの学生たちにも同様の制度として継続したく、現奨学金への追加という形で皆様の支援を賜りたくお願い申し上げます。

募金方法や税制上の優遇措置など、詳しくはWEBサイトをご覧ください。中央大学ホームページの経済学部トップから黄色のバナーをクリック。スマホはQRコードから。



2023年8月31日 第84号
発行 白門経友会常任幹事会
編集 白門経友会編集委員会
〒192-0393
東京都八王子市東中野 742-1
中央大学経済学部内
URL : www.wg-keiyukai.com
Fax : 042-673-3425